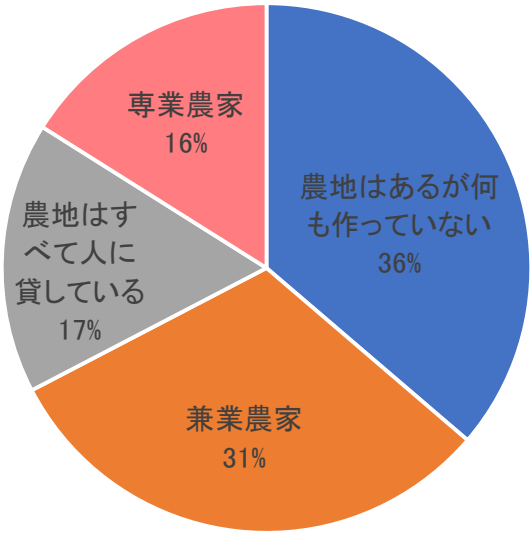
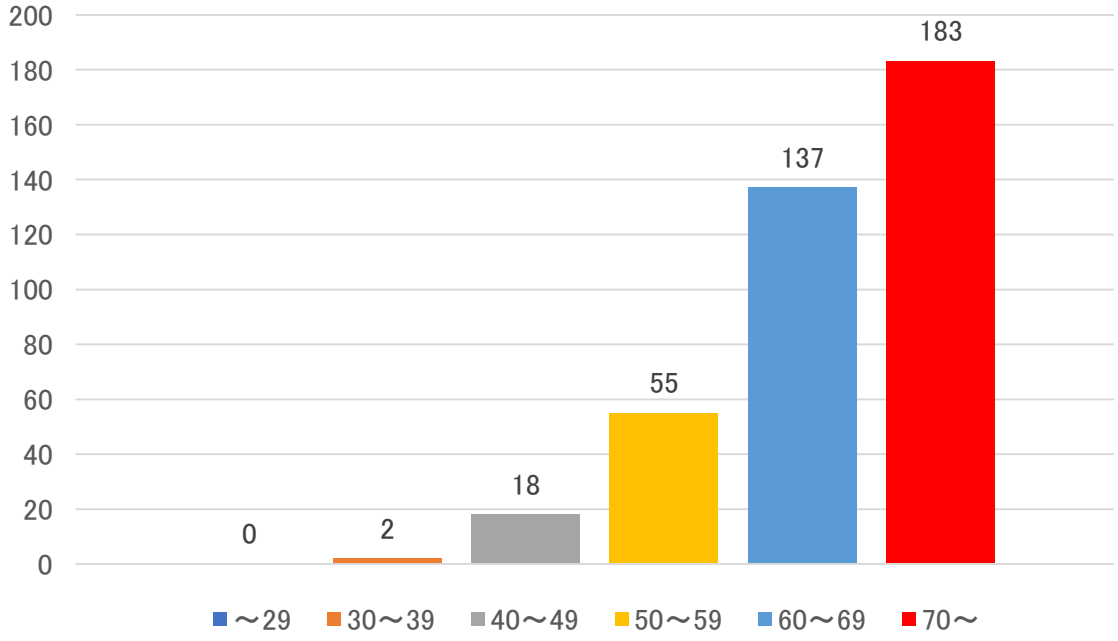
地域農業の将来に関するアンケート結果＜上山地区＞

対象者総数　419　　回答者数　193　　回答率　46.1%

(1) あなたの農業形態を教えてください。



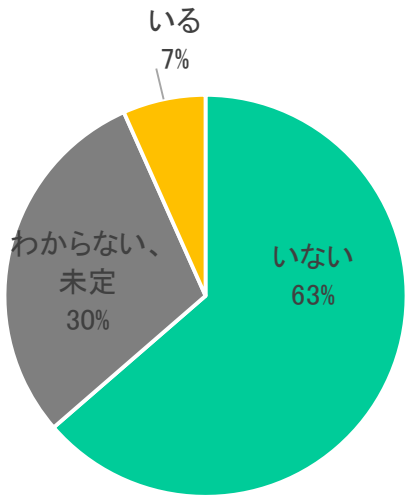
経営者年齢分布図(単位:人)



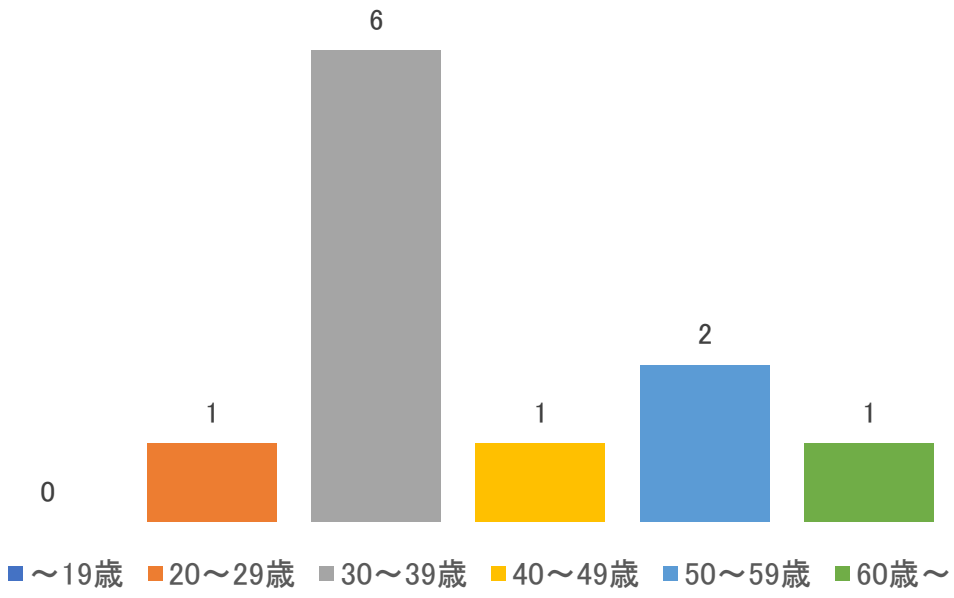
※経営者年齢は農家台帳システムおよびアンケート回答から集計した。

地域の農家のうち、農地はあるが何も作っていない人が36%と最も大きい割合を占める。
若年層の経営者が少なく、農家の高齢化が進んでいる。

(2) あなたの農業の引き継ぎ手はいますか。

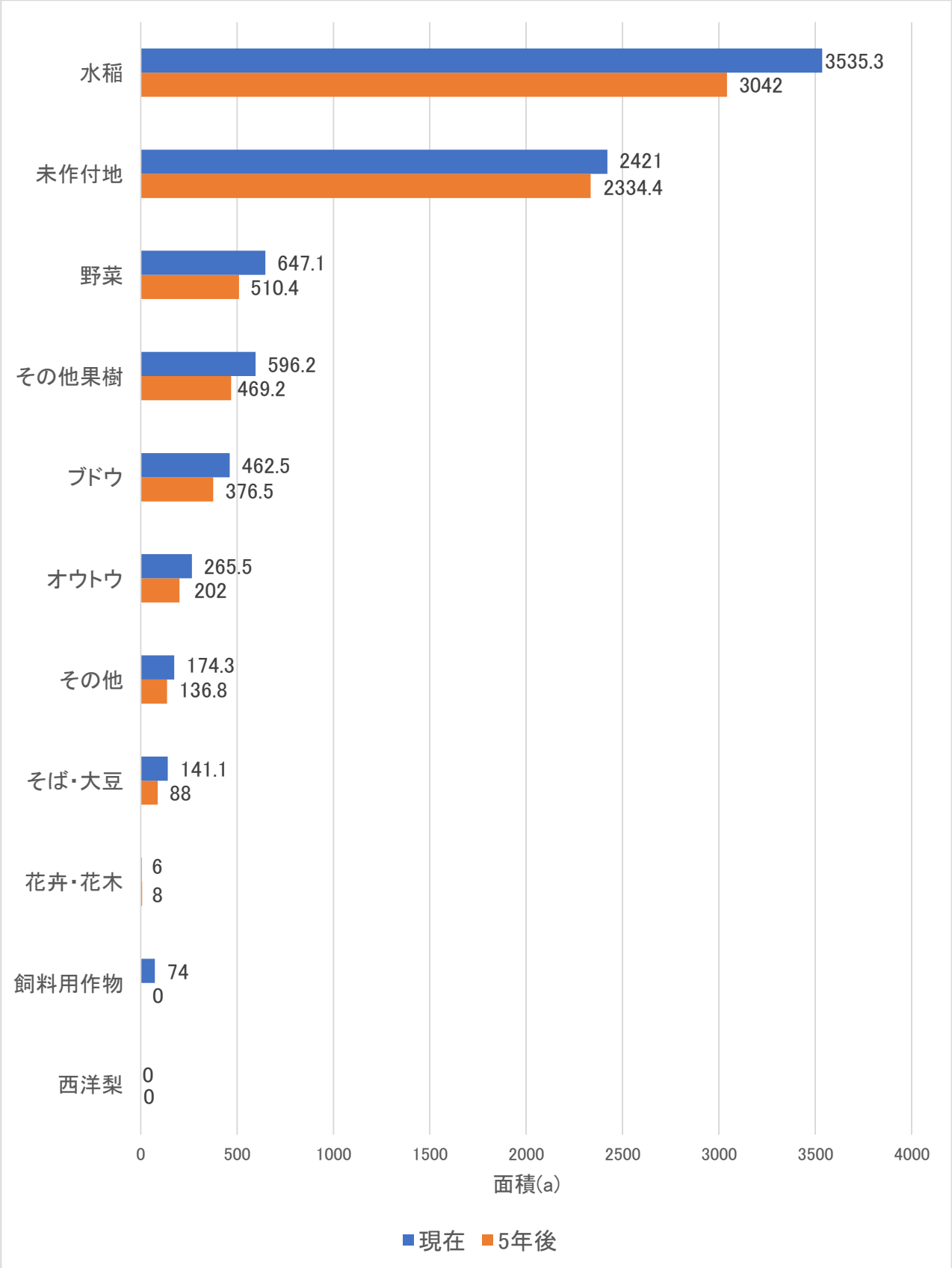


(2) 後継者年齢分布図(単位:人)



後継者がいると答えた人は７％にとどまったものの、年齢を見ると、３０代に集中していることがわかる。

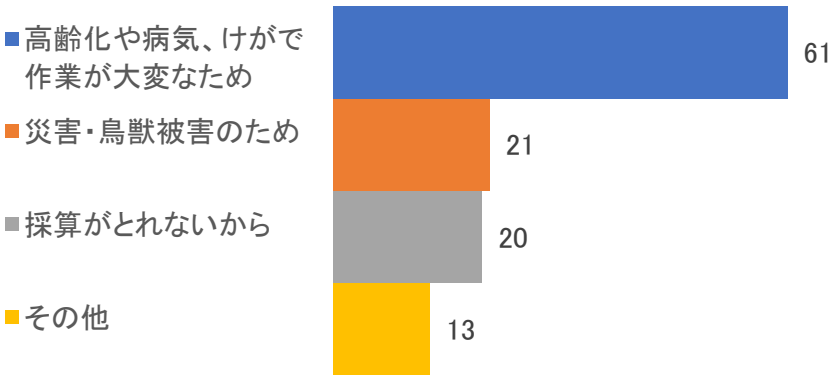
(3) あなたの現在と将来の農業構成を教えてください。(グラフ数値は地区全体の合計面積(a))



アンケートでは、地区全体で 18%（1,061a）の農地を縮小したい意向であった。また、未作付地は将来全体の 32.5%を占める見込み。

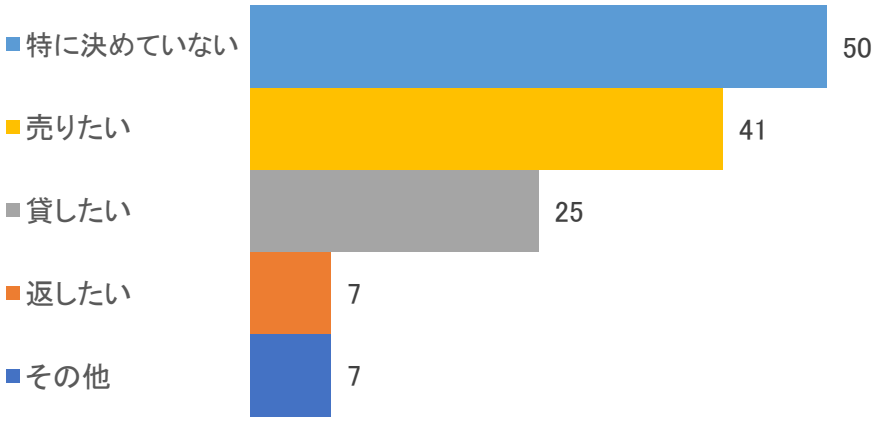
(4)（規模拡大したい方へ）規模拡大の方法はどのようにお考えですか。（複数回答可。単位：人）

(5) ①（栽培をやめたい、縮小したい方へ）理由は何ですか。（複数回答可。単位：人）



その他記載欄…
「他の仕事に従事しているため」
「貸していた方が高齢になり、耕作できなくなった」
「農業に従事したことがない」
「栽培する気がない」

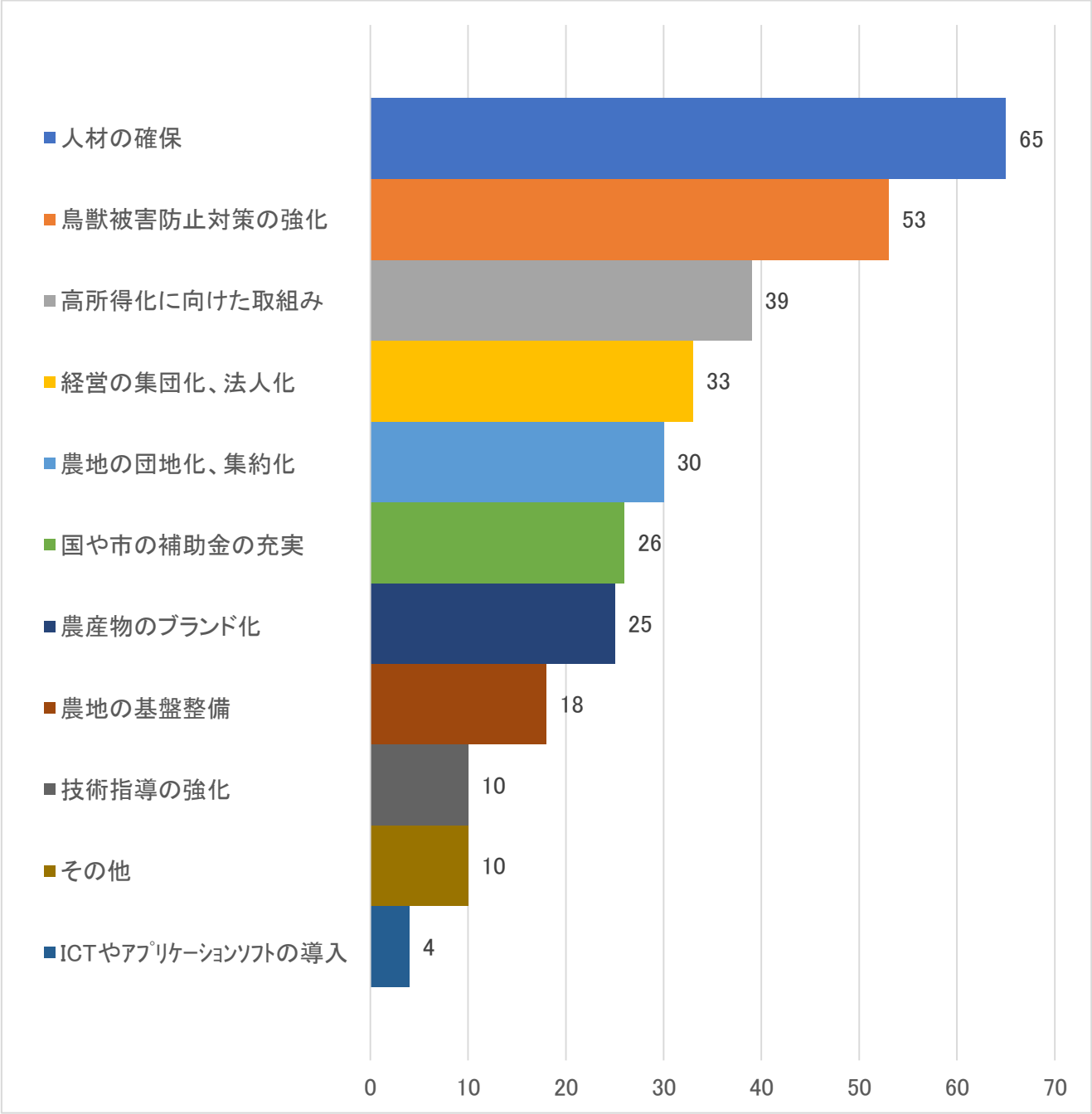
(5) ②（栽培をやめたい、縮小したい方へ）栽培をやめた、あるいは規模を縮小したあと、農地はどうしたいですか。（複数回答可。単位：人）



その他記載欄…
「他作物への変更」
「約40年前より耕作していないため、原野化しており、農地としての使用は不可能。また高齢のため将来の事は考えられない。」
「自家消費栽培用」

規模縮小したい理由として、高齢化や傷病など身体的な理由が最も多く占めるが、本庁地区はもともと農業をしたことがない人も多い。また、栽培をやめた農地の用途については特に決めていない人が最も多いが、ほかの地区と比して「売りたい」が特に多い。

(6) 今後の地域農業のために、何が必要だと思いますか。(複数回答可。単位:人)



※その他記載欄…「若い農業者への手厚い支援。市民農園の拡大→観光、リゾートと結び付け」
「農地、農業経営の流動化できるように販売できる法人化。」
「別になにもしなくて良い。元田が山になるだけ。」
「貸しやすく。作る人は広げやすく。」「土地はいらない」
「後継者や借りる側に再生できるように補助金を出して欲しい。」
「農地保全のための作物の導入(飼料作物やそば等？)農地を貸したいと申込みしているが借りたい人がいない。」

人材確保が鳥獣被害対策を上回り最も多い。全体をとおして、農地の維持に市街地ならではの難しさや苦労が表れた。